



## 「夫は外、妻は家」？

今年の推薦選抜における日比谷の小論文の題材は「男女共同参画社会基本法」である。（そのうちホームページにアップされるだろう）。そこで、ちょっとそれに関連して小論文の問題を出してみよう。

【問題】次の文章を読み、少子化対策に対するあなたの考えを800字以内で述べよ。

NHK経営委員で埼玉大名誉教授の長谷川三千子氏（67）が、女性の社会進出が出生率を低下させたとし、男女共同参画社会基本法などを批判するコラムを産経新聞に寄せた。

### ■少子化解決策と主張

『性別役割分担』は哺乳動物の一員である人間にとって、きわめて自然

長谷川氏は6日に掲載されたコラムで、日本の少子化問題の解決策として、女性が家で子を産み育て男性が妻と子を養うのが合理的と主張。女性に社会進出を促す男女雇用機会均等法の思想は個人の生き方への干渉だと批判し、政府に対し「誤りを反省して方向を転ずべき」と求めた。長谷川氏は朝日新聞の取材に、コラムの狙いを「極めて重大な問題。早く手を打たないとならない」と説明。人口減はNHKにとっても受信料の減少につながるため、「非常に由々しい問題」と回答した。経済事情から共働きせざるを得ない家庭もあることについては、「若い世代の正規雇用確保が大切な条件。アベノミクスに頑張っただけ」と答えた。

### ■自身は大学で教えながら育児

長谷川氏の専門は「比較思想」「日本文化論」で本居宣長などを研究。婚外子の相続差別規定を廃止する最高裁決定を批判し、選択的夫婦別姓制度にも反対している。

自身は埼玉大で教えながら1男1女を育て

た。「こけつまろびつの中で子育てがどれだけ大変でかつ重要なものを学びとった」と、取材に対して述べた。著作によると、中学時代は普通の主婦になりたくない作文に書いたが子育てを経験し主婦の偉大さに気づき、「反フェミニズム」の道を歩み始めたという。

### ■役割分業、効果は？

「夫は外、妻は家」という性別役割分業が、少子化対策になるのか。専業主婦を志向する人は増えている。2012年の内閣府世論調査では性別役割分業を支持する人が半数を超え、1992年以来初めて増加に転じた。ただ、兵庫教育大の永田夏来助教（家族社会学）は「体を壊すほど働いても月収10万円という若者も多い。厳しい現実への反動」とみる。

北欧などでは役割分業ではなく、女性も男性も外で働きながら育児をしやすいよう支援して出生率が回復した。スウェーデンでは保育所などの支援が手厚く、父親の育児休業取得率が8割という調査結果もある。フランスは労働時間の短縮などで出生率回復に成功した。

男女共同参画会議の元議員で、東京家政大名誉教授（女性学）の樋口恵子氏は「先進国の少子化対策の常識は性別役割分業とは逆で男女共同参画が前提。もちろん主婦志向の人を非難するものでもない」と話す。父親の育児参加を支援するNPO法人ファザーリング・ジャパンの安藤哲也副代表は、長谷川氏の主張について「経済が右肩上がりだった時代の考え方で、無理がある」と話す。「夫婦2人で働かないと立ちゆかない世帯も多い。育児も仕事も分け合う方が若い世代の現状には合うし、合理的です」。（朝日新聞1月28日朝刊より）